

令和6年1月31日

保護者様

北九州市立篠崎中学校
校長 安部 朋恵

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

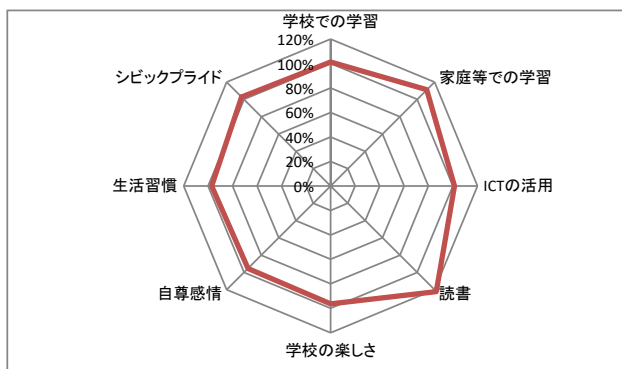
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	各領域において、自分の考えをもったり、それを表現したりする「考えの形成」や「共有」に関する問題では全国平均を上回っている。一方で、話の構造を理解したり内容を把握したりする問題を苦手とする生徒が多い。	上回っている
数学	数と式」、「データの活用」の領域における思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題で全国平均を大きく上回っている。一方で、「図形」の領域における証明に関する問題で全国平均を下回っている。	上回っている
英語	全体的に全国平均を下回っており、特に記述式の問題を苦手とする生徒が多い。基礎・基本を定着させられるように指導していきたい。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学校での学習において「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」との間に対して全国平均を大きく上回っていることから、協同学習や授業ユニバーサルデザインに取り組んできた成果が表れたと考えられる。
・学校での生活において「学校に行くのは楽しいと思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」との間に対して全国平均を大きく下回っていることから、生徒会活動や学校行事の活性化を図り、生徒の行動や発言を教員が細かく肯定的な評価をしていくような取組を行っていく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」との間に対して全国平均を大きく下回っていることから、学習計画・単元計画を生徒と共有することや振り返り活動の取組を全職員で共通理解し、推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習や家庭での生活習慣は安定しているが、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」との間に対して全国平均を大きく下回っており、原因はスマートフォンやSNSの長時間の使用であると考えられる。生徒や保護者に、スマートフォンやSNSの正しい使い方について発信する。